

研究発表（口頭/ポスター）・実践報告 スケジュール

○：発表者 ◎：若手優秀発表賞エントリー

研究発表Ⅰ（口頭）6月29日（日）9:00～9:55

A会場（6号棟3階63B）					
	発表番号	演題（研究題目）	発表者	掲載頁	座長
9:00 ～ 9:15	A-1	ASEプログラムにおける高校生の非認知能力の変容 ーGrit・レジリエンス・社会的スキルに着目してー	◎橋本和俊（びわこ成蹊スポーツ大学）水津真委 田井誠人（びわこ成蹊スポーツ大学アウトドアスポー ツセンター）黒澤毅（びわこ成蹊スポーツ大学）	22	井上望 駿河台大学
9:15 ～ 9:30	A-2	山村留学経験がアイデンティティ形成に及ぼす影響 ー複線径路・等至性モデルによる質的検討ー	◎森山玖実（筑波大学大学院）坂本昭裕（筑波大学）	24	
9:30 ～ 9:45	A-3	自然観光地におけるビジターセンターの提供機能と運営 課題の抽出	◎福田一葉（東京農業大学大学院）下嶋聖（東京農業 大学）	26	
コミュニケーションタイム（9:45～9:55）					

B会場（6号棟3階63C）					
	発表番号	演題（研究題目）	発表者	掲載頁	座長
9:00 ～ 9:15	B-1	野外教育学におけるアニミズムの可能性 ーカナダ先住民のLand-Based Pedagogyを端緒としてー	○土方圭（明治大学）	38	徳田真彦 大阪体育大学
9:15 ～ 9:30	B-2	わが国における近代冒険教育史の検討 ーイギリスの教育運動による影響に着目してー	○西島大祐（鎌倉女子大学短期大学部）	40	
9:30 ～ 9:45	B-3	自然に対して感じる美しさの構造 ー中井正一の美学に依拠した考察ー	○高橋徹（岡山大学）	42	
コミュニケーションタイム（9:45～9:55）					

研究発表Ⅱ（口頭）6月29日（日）10:00～10:55

A会場（6号棟3階63B）					
	発表番号	演題（研究題目）	発表者	掲載頁	座長
10:00 ～ 10:15	A-4	バックカントリースキー実践による山岳斜面の場所形成 ー滑られ、名付けられ、共通認識される斜面ー	◎吉沢直（北海道大学）	28	坂谷充 北翔大学
10:15 ～ 10:30	A-5	野外教育と趣味教育の接点についての検討	◎青戸徹生（岡山大学大学院）高橋徹（岡山大学）	30	
10:30 ～ 10:45	A-6	スウェーデンの野外教育におけるロマン主義 ーFriluftslivとナショナル・アイデンティティ形成に 関する史的研究ー	◎伊藤相（東京外国語大学）	32	
コミュニケーションタイム（10:45～10:55）					

B会場（6号棟3階63C）					
	発表番号	演題（研究題目）	発表者	掲載頁	座長
10:00 ～ 10:15	B-4	GISを用いた国立公園別にみる自然体験活動促進事業実 施の潜在評価	○下嶋聖（東京農業大学）	44	高橋宏斗 流通科学大学
10:15 ～ 10:30	B-5	地域資源としてのサンゴ礁を保全するためのレジャー的 海域利用 ー沖縄県座間味村における事例研究ー	○千足耕一（東京海洋大学）蓬郷尚代（中央大学）	46	
10:30 ～ 10:45	B-6	「誰かのために役立つ喜び」を育む長期自然体験プログ ラムの開発と実践 ー自己覚知の深化に着目してー	○中野充（新潟青陵大学）青木康太郎（國學院大学） 小林孝之助（自然体験活動推進協議会）	48	
コミュニケーションタイム（10:45～10:55）					

研究発表Ⅲ（口頭）6月29日（日）11:00～11:35

A会場（6号棟3階63B）					
	発表番号	演題（研究題目）	発表者	掲載頁	座長
11:00 ～ 11:15	A-7	交流のその先へ：継続的なキャンプ参加がろう・難聴児 の健聴者との関わりに与える影響 ー聴スタッフとの関係に着目してー	○針ヶ谷雅子（ろう・難聴児の体験活動を支える会） 太田正義（常葉大学）	34	向後佑香 筑波技術大学
11:15 ～ 11:30	A-8	交流型クライミング参加者の体験の意味の探求	○林綾子 中道莉央（びわこ成蹊スポーツ大学）小林 幸一郎（NPO法人モンキーマジック）伊藤相（東京外 国語大学）	36	
コミュニケーションタイム（11:30～11:35）					

研究発表（ポスター）6月29日（日）13:00～14:00 場所：7号棟3階73A・732

※発表者は13:00～14:00の間、ポスターの前に在席してください。

	演題（研究題目）	発表者	掲載頁
P-1	体験学習に指導者が与える影響についての一考察 ー学習特性に着目してー	○高橋宏斗（流通科学大学）	50
P-2	自然の不確実性が育む子どものアロスタシス機能 ー自然体験における自己調整力と回復力を心拍変動（RMSSD）から探る探索的研究ー	○永吉英記（国士舘大学）山崎源太（国士舘大学）加藤晃也（国士舘大学大学院）	51
P-3	スキndaイビングを模した断続的息こらえ潜水の泳者の出力特徴について	○永島昇太郎（帝京大学）	52
P-4	障害のある子どもとその家族の自然体験旅行への期待と不安に関する研究 ーA市との共同調査からー	○加藤彩乃（信州大学）小泉二郎（慶應義塾大学）	53
P-5	大学におけるサービslラーニング型野外教育授業によるSelf-authorshipの育成に向けた理論的検討	○佐藤冬果（東京家政学院大学）	54
P-6	地域・学校・家庭で育む防災力と自然体験活動との関係 ー多摩市における子どもと保護者の防災意識調査ー	○山崎源太（国士舘大学）加藤晃也（国士舘大学大学院）永吉英記（国士舘大学）	55
P-7	中学生に対する継続的な自然体験活動（南房総学）はソーシャル・キャピタルを向上させるのか？	○篠原準（富山学園南房総市立富山中学校）徳田真彦（大阪体育大学）棟田雅也（鹿屋体育大学）白井健（合同会社くじらのもり）花嶋桃子（南房総市大房岬自然の家）神保清司（南房総市大房岬自然の家）	56
P-8	ノルウェーの自然を活かした保育実践に関する一考察 ーSTEAM教育と地域資源の活用に着目してー	○柴田卓（郡山女子大学短期大学部）	57
P-9	野外活動における“遭難”はなぜおきるのか？ ー海、山、川、湖における事例からの検討ー	○松本秀夫（東海大学体育学部）相原太郎（東海大学大学院博士課程後期）	58
P-10	自然認識を把握するためのピクチャマイニング手法の可能性	○杉浦克明（日本大学生物資源科学部）	59
P-11	知床・羅臼町における「第40回ふるさと少年探険隊」の実情と今後の課題	○石川国広（東京科学大学）近藤剛（鳥取短期大学）	60
P-12	わが国のエコミュージアムの現状	○中川宏治（びわこ成蹊スポーツ大学）	61
P-13	野外運動授業による学修者の創造的自己の変容プロセス	○渡邊仁 坂本昭裕（筑波大学）	62
P-14	教員養成課程における野外実習の改善に向けた一考察 ー学生が捉える集団宿泊活動がもたらすウェルビーイングの向上に関わる効果に着目してー	○加藤晃也（国士舘大学大学院）山崎源太（国士舘大学）永吉英記（国士舘大学）	63
P-15	自然地形を活かした俯瞰型夜景の特徴 ー夜景の体系化とナイトタイムコンテンツ活用ー	○佐藤結佳子（東京農業大学大学院）下嶋聖（東京農業大学）	64
P-16	大学生アウトドアリーダーにおける活動の参加動機の特徴	○松岡咲綾（大阪電気通信大学大学院）中井聖（大阪電気通信大学）佐藤真史（特定非営利活動法人ナック）神野周太郎（大阪電気通信大学）	65
P-17	日本における野外活動の季節性 ー通年活動と季節活動に着目してー	○相原太郎（東海大学大学院博士課程後期）松本秀夫（東海大学）	66
P-18	自然学校におけるデジタル技術の活用 ー施設オリエンテーリングアプリの導入ー	○池田麗紅（関西学院大学大学院）西垣幸造（尼崎市立美方高原自然の家）甲斐知彦（関西学院大学）	67
P-19	統合型キャンプが発達障害児の向社会的行動に及ぼす影響	○藤川萌（筑波大学大学院）坂本昭裕（筑波大学）	68
P-20	キャンプ実践を通じたキャンプカウンセラーの成長と求められる力の調査	○澤近遥希（至学館大学大学院）福富優（至学館大学）	69
P-21	青少年教育施設で行われる体験活動の熱中症予防に関する一考察	○阿部麻由里（国立青少年教育振興機構）青木康太郎（國學院大學）	70

実践報告 6月29日（日）13:00～14:00 場所：7号棟3階73B・734

※発表者は13:00～14:00の間、ポスターの前に在席してください。

	演題（研究題目）	発表者	掲載頁
R-1	大学教養教育の一環として「北海道野外レクリエーション」のワカサギ釣り体験の実践例：学生の声から分かる効果と課題。	○メドウズ マーティン（名寄市立大学） 田中一徳（國學院大學北海道短期大学部）	71
R-2	高専における野外教育の実践 ー長野高専ウェルネス・アウトドアー	○井浦徹 金田華実（長野工業高等専門学校） 瀧直也（信州大学）	72
R-3	森林総合研究所多摩森林科学園における森林教育の取り組み	○井上真理子（森林総合研究所多摩森林科学園） 大石康彦（森林総合研究所多摩森林科学園）	72
R-4	幼児キャンプにおける身体活動の原体験の意味を探索	○遠藤知里（常葉大学短期大学部） 富田エミ（常葉大学保育学部）	73
R-5	「STEPN GO」を活用した野外教育の新展開 ー健康・学び・経済価値を統合するMove-to-Earnプラットフォームー	○及川未希生（盛岡大学短期大学部）	73
R-6	アートを通して自然を再発見する ー尼崎市立美方高原自然の家での試みー	○甲斐知彦（関西学院大学） 佐々木樹（兵庫県立大学・秋田公立美術大学） 西垣幸造（尼崎市立美方高原自然の家）	74
R-7	高校生と企業が連携したアウトドアイベントの実践報告	○高橋励起（札幌新陽高等学校） 植田祐矢（札幌新陽高等学校）	74
R-8	レジャースポーツ実習が大学生の社会人基礎力に及ぼす有効性の検討	○高山昌子 横山誠（大阪国際大学）	75
R-9	北海道岩見沢市における地域資源を活かしたアウトドアプログラムの開発	○山田亮 武田丈太郎 鈴木哲平 山本理人（北海道教育大学岩見沢校） 小森伸一（東京学芸大学）	75
R-10	そにとキャンプの意味・意義 ー保護者に対する聞き取り調査からー	○小西岳勝（国立曽爾青少年自然の家） 富井奈菜実（奈良教育大学）	76
R-11	幼児の自然体験活動における探索行動と学びの生成プロセス ー森のようちえんの実践からー	○庄子佳吾（仙台大学）	76
R-12	デジタルマーケティングを活用したキャンプの実践事例 ーArt&Creative Campの実践からー	○西垣幸造（尼崎市立美方高原自然の家） 関口陽介（株式会社ATARAYO） 堀川健一郎（アップパフォーマンス合同会社） 甲斐知彦（関西学院大学）	77
R-13	不登校の子どもたちが安心を実感できる居場所づくり ーSaSaLANDにおける野外活動の実践ー	○瀧直也 茅野理恵 三和秀平 下山真衣（信州大学）	77
R-14	教養科目『ディスカバリー北海道』における体験型教育の実践報告 ーアドベンチャートラベルの視点からの考察ー	○田中一徳（國學院大學北海道短期大学部）	78
R-15	教育格差是正政策と野外教育 ー長野市「みらいハッケンプロジェクト」を事例にー	○福畑皓生（無所属）	78
R-16	野外教育におけるデジタル技術導入の可能性 ー国立諫早青少年自然の家におけるアプリ活用の試みー	○蓮見直子 日高由樹 吉田流風 中里文彦（国立諫早青少年自然の家） 甲斐知彦（関西学院大学）	79
R-17	医療系大学における野外活動を含む宿泊研修の再開 ーコロナ禍を経て5年ぶりの実施ー	○向後和典（つくば国際大学） 杉野一行（つくば国際大学） 小林聖美（つくば国際大学） 鈴木康文（つくば国際大学）	79
R-18	台湾体育大学のRookies Outdoor Orientation Tripプログラムへ参加して	○中尾海世（大阪体育大学体育学部） 阿部拓真（JR西日本SC開発株式会社） 橋本和俊（びわこ成蹊スポーツ大学） 徳田真彦（大阪体育大学）	80